

L08b

## ぐんま天文台 65cm 望遠鏡による C/2000WM1 (LINEAR) 彗星の 低分散分光モニタリング観測

河北 秀世、浜根 寿彦、衣笠 健三 (県立ぐんま天文台)、  
山室 智康、武山 芸英 ((株) ジェネシア)

C/2000WM1 (LINEAR) 彗星は、2002年1月に近日点を迎える彗星であり、近日点付近ではV等級で約5等まで明るくなっている。残念ながら近日点付近では赤緯が低くなるため、日本からは観測できない。

我々のグループは、2001年10月30日から、ぐんま天文台 65cm 望遠鏡と小型低分散分光器 (GCS) を用い、波長 3800 から 7500Å 付近までの低分散スペクトル (波長分解能  $\sim 500$ ) を継続的に取得するモニタリング観測を行っている。2001年10月30日の時点で、彗星の日心距離は 1.7AU であった (彗星の近日点距離は 0.56AU)。また、近日点前の最終観測は 12月7日であり、日心距離は 1.1AU である。

この彗星は、観測当初、非常に高いダスト/ガス比を示しており、ダストリッチであると思われた。しかし、11月終りから12月初めにかけて、ダスト/ガス比は約半分から  $1/3$  にまで減少している。他の観測者による測光では、この時期にIバンド (主にダストの散乱光) 光度が減少していることが分かっており、このこととの関係は非常に興味深い (これについては別発表有)。本発表では、近日点通過後の観測 (2月後半以降) を含め、C/2000WM1 (LINEAR) 彗星のスペクトルの変化について報告をする予定である。